



淡路島における瓦を用いた景観形成

The formation of landscape using Tiles in Awaji island

要約

兵庫県立淡路景観園芸学校は、人材養成、生涯学習、調査研究、情報発信、産業振興などの5つの機能が目標とされている。ここでは、淡路島の伝統的な産業である、いぶし瓦を用いた環境改善事例を紹介する。それらは、①生涯学習におけるコラボレーションワークスとしての緑地施工、②慶野松原における淡路瓦を用いた景観改善、③南あわじ市伊弉地区における淡路瓦を用いた産業振興、景観形成、地域振興などである。

<http://www15.plala.or.jp/h-mayumi/>

研究者

林 まゆみ
HAYASHI Mayumi

兵庫県立淡路景観園芸学校は、人材養成、生涯学習、調査研究、情報発信、産業振興などの5つの機能が目標とされている。この頁では、淡路島の伝統的な産業である、いぶし瓦を用いて景観形成を行ってきた事例を紹介する。

以下は、実践的授業の一環として、実際に緑地デザイン実習を行ってきたものでコラボレーションワークスとして、受講生、学校教員などの意見を活かしてデザインした。植物材料は主には在来種を用いた。(①)

他方、淡路島における松の名所として知られている慶野松原では、地元住民が参画してワークショップを開催したりしながら、この淡路瓦を用い

た景観形成を行った。デザインを提案し、現場の工夫を凝らしながら完成した。これらは淡路オープンガーデンの開催場としても活用され、地元住民の瓦に対する愛着や地域の活性化に寄与した。現在でもまだ瓦の景観形成が引き続き行われており、国体などの花飾りにも発展した。(②, ③)

次に紹介するのは、南あわじ市の伊弉地区における瓦を用いた景観形成である。伊弉地区は小さな漁港と民宿が存在するまちであるが、瓦を用いて産業振興、観光振興、地域活性化などを試みた。ここでは、他にも地区センター前の緑地やごみステーションの改修などが広がった。(④, ⑤)

① 淡路瓦を用いた棚田を表現した





② 瓦を用いて50mに亘る塀を築いた



③ 平瓦と植物を用いて市松模様を表現



④ 淡路島南インター前の瓦を用いた表現



⑤ 伊弉海水浴場前の波瓦のオブジェ